

ペースメーカー植え込み

出山 基（化工会）

今年（2017年）のはじめあたりから、自宅の居間でソファに座ってテレビを観ている時とか、早朝のウォーキングの途中とかに、時々、「急にめまい、気が遠くなる（1～2秒）」状態がありましたが、すぐに良くなるのであまり気にしていませんでした。また5月初めに車で東京に行った途中で、運転中に2回、同じ状態になりましたが、何れも赤信号でブレーキを踏んだ時だったのであまり気にしていませんでした。



6月12日の編集会議の時に、応化会の中田さんにこのことを話したら、すぐ医者に行くよう強く言われました。

翌6月13日午後、元の会社OBのブリッジクラブでのゲームの途中、「急にめまい、気が遠くなる（1～2秒）」状態が2時間ぐらいの間に数回出たので、途中でゲームを止め病院に行く決心をしました。病院は、原因は持病の腹部大動脈瘤が関係しているか疑ったので、行きつけの横浜市大浦舟の心臓血管外科に電話してから行きました。

先生に診ていただいている途中にこの症状が出たので病名が不整脈だとすぐ分かったのが幸いでした。すぐ入院・検査となりました。原因は服用している薬の副作用ではないかということで、これまで本態性振戦（手が震える）の治療で現役時代から飲んでいるアロチノロール塩酸塩（昔はアルマールでしたが改名）の服用をやめ様子を見ることにしました。この薬は脈を遅らせる作用があるからで、この薬の服用を止めたら、不整脈の症状がなくなるかチェックするため入院が長引きました。

入院当初は、連続心電図記録によると1日に数回、2秒から5秒の脈迫停止がありました。

服用中止後数日で不整脈の症状が出なくなったのですが、長年服用していたのだから心臓機能が弱っているのではペースメーカーを入れるよう勧められました。20日に心臓血管外科を退院し、29日に心臓血管内科（循環器科）に再入院し6月30日にペースメーカーを左胸上部に植え込み、7月5日に退院しました。正式な病名は、心臓障害の洞（機能）不全症候群だそうです。

ペースメーカーは、心臓の脈動が毎分60回（私の場合の設定値）に下がったら作動し心臓を動かすようにできています。自宅での脈拍数は70から80でした。

ペースメーカー装着後、手が震えて字が書けないので医者に相談し、アロチノロール塩酸塩の服用を再開しました。これにより脈拍数は60～70に下がりました。

9月10日現在の体調は、少し歩くと疲れが出てくるような気がするので、朝のウォーキングは従来の1時間から40分に減らして様子を見ています。

以上